

平成 30 年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び
体制整備への支援事業）」
成果報告書

平成 31 年 4 月
一般財団法人全日本ろうあ連盟

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、一般財団法人全日本ろうあ連盟が実施した平成30年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

【事業概要と目的】

(1) デフスポーツネットワーク会議

デフスポーツに関わる団体・機関が一堂に会し、関係機関のネットワークを構築するための会議および学習会を行う。併せて、それぞれが抱えている当面の課題や支援を必要としている事項等について意見交換を行い、参加者にアンケートをとり、会議のあり方や今後のデフスポーツ振興における課題整理を行う。

(2) デフ競技団体の医科学支援

デフ競技団体の担当医・トレーナー等医科学サポートに携わるメンバーのネットワークを構築し、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会の医科学委員より、各団体の医科学スタッフに助言を行う。また、ろう者の特性を考慮した医科学支援のためのパンフレットを作成して、日本障がい者スポーツ協会の登録医およびトレーナーへ配布をすることにより、デフスポーツに理解のある医科学支援者のすそ野を広げる。

(3) デフリンピック啓発のための事業

民間企業、一般の人向けにデフリンピックの理解を広めるためにイベントを開催。名称を「デフリンピック・フェスティバル」と銘打って、著名人を招いての対談やデフリンピック出場選手の講演など親しみやすい内容とし、デフリンピック・デフスポーツの啓発を行う。

【現状と課題】 (番号は上記事業名に対応するものです)

(1) 国内にはデフスポーツ団体が22団体あるが、規模の小さい団体もあり運営が難しいところが多い。また、選手は存在するものの、デフリンピック実施競技の中でもデフスポーツ団体が存在しない競技もある。また、団体（競技）によっては若手選手の発掘がなかなかできない状況がある、NF（JOC加盟の競技団体）との関わりが弱い、また、団体のスタッフ体制の整備に苦労している等、様々な課題を抱えているところも多い。

(1) デフスポーツ団体間で関係を作り、共にデフスポーツ・デフリンピックの理解・啓発を進められる環境整備が必要であり、また、選手が競技に打ち込めるよう、企業や一般市民への理解を進めていくことも重要である。

(2) 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会とデフスポーツ団体のメディカルスタッフのネットワークを構築し、デフアスリートにとって適切なメディカルサポートを行える環境を作る必要がある。また、デフスポーツ団体と全国のろうあ団体の繋がりを持つことにより、選手発掘や大会開催時のサポートが行える環境を作る必要がある。

(3) ろう者のオリンピックである「デフリンピック」の知名度は約11%（日本財団パラリンピック研究会調査:国内外一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心 調査結果報告(2014)より)、またデフスポーツそのものも他の障害者スポーツと比較して知名度が低く、一般社会に浸透しているとは言えない。そのため、世界大会に出場する選手の金銭的負担や、勤務先への派遣の理解が得られないなどの困難がある。また、大会運営に係る情報保障体制（手話通訳・要約筆記）や、視覚的保障の機器・設備環境についても十分とは言えない状態である。

(3) 聞こえる人の競技大会に参加しているデフアスリートがいる一方で、特にスポーツ選手であるろう者の生徒・学生本人が、ろう者の国際的スポーツ大会の「デフリンピック」、またろう者の国内最高峰の複合スポーツ大会である「全国ろうあ者体育大会」を知らないという事態が起きている。

【事業の詳細と成果】

(1) デフスポーツネットワーク会議

日 時：2019年1月27日（日）9：30～17：00

会 場：ビジョンセンター東京駅前

参加者：デフスポーツ団体・全日本ろうあ連盟加盟団体（以下、加盟団体）体育部長、ろう学校関係者 他
60名（主催者側含む）

出 席：全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 小椋武夫委員長・倉野直紀事務局長・中西潤委員（事務局スタッフ3名）

ミニ講演『スペシャルオリンピックス日本の25年』

スペシャルオリンピックス日本 常務理事補佐 渡邊浩美氏

知的障害のある人たちに、オリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングとその成果を発表する場となる競技会を提供している組織である、スペシャルオリンピックス日本の渡邊浩美常務理事補佐より、『スペシャルオリンピックス日本の25年』と題した講演。スペシャルオリンピックスが行う競技会では、上位だけでなく参加者全員が表彰を受けること、世界170の国と地域で活動が進められていること、知的障害のあるアスリートと知的障害のない人が共にチームを組み、スポーツを楽しむ「ユニファイドスポーツ」への取組みなどを話された。

パネルディスカッション

『障害者スポーツを「見る」から「知る」「応援する」「支援する」へ』

- ・見る→障害者スポーツを目にする。
- ・知る→障害種別ならではの特性を知る。
- ・応援する→試合を観戦する。
- ・支援する→サポーターになる。

コーディネーター：全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員長 小椋武夫

パネリスト：①日本パラリンピック委員会 委員長補佐 中森邦男氏

②スペシャルオリンピックス日本 常務理事補佐 渡邊浩美氏

③全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長 倉野直紀

「見る」「知る」「応援する」「支援する」の4つをキーワードに、パラスポーツ、知的障害者スポーツ、デフスポーツそれぞれの立場からパネリストが意見を述べた。また、国内外の大会へ参加する際の派遣費用の作成、まだまだ認知度が低い障害者スポーツの普及方法など各団体の特性や運営について意見交換を行った。

デフスポーツ団体からの現状報告（各団体から取り組みや課題などが報告された）

- ①（一社）日本ろう者スキー協会
- ②日本デフオリエンテーリング協会
- ③（一社）日本ろう武道連盟
- ④（NPO）全日本聴覚障害スキー指導員会
- ⑤日本聴力障害者軟式野球連盟
- ⑥（一社）日本ろう自転車競技協会
- ⑦日本ろう者ソフトボール協会
- ⑧日本ろう者ボウリング連合

- ⑨ (一社) 日本ろう者サッカー協会
- ⑩ (一社) デフビーチバレーボール協会
- ⑪ (一社) 日本ろうあ者卓球協会
- ⑫ (一社) 日本聴覚障害者陸上競技協会
- ⑬ (一社) 日本ろう者テニス協会
- ⑭ (一社) 日本ろう者水泳協会
- ⑮ (一社) 日本デフバレーボール協会

分散会

テーマ①『選手の発掘及び強化』(参加:20名)

進行役:全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長 倉野直紀

聞こえる学校の部活動やスポーツクラブから選手を見つけ出す方法とは。またろう学校で部活動をしている生徒とつながりを持つには(発掘)。個人及び団体が大会に出場し、メダルを獲得できるレベルまで育て上げる術とは(強化)。

(討議内容)

まず基礎にはろう学校での部活動がある、卒業後は加盟団体に加入し体育大会に参加する、そしてデフスポーツ団体に所属するというピラミッド型で成り立っていること、選手を発掘するためにはろう学校、加盟団体、デフスポーツ団体の三者間の関わりが大切であることを確認した。

テーマ②『競技団体の運営や企業支援のつながり』(参加:22名)

進行役:全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 委員長 小椋武夫

デフスポーツ団体の運営、ガバナンス統治における課題、デフスポーツ団体や選手への企業からの支援をどう結びつけるのか。指導者(外部含む)やスポーツ用語等に長けた手話通訳の確保・養成方法とは。

(討議内容)

各競技団体と加盟団体体育部とのつながりが薄いことの現状を認識し、今後この繋がりを強くしていきたい。手話通訳の体制については、デフ競技に長けた手話通訳士を確保・育成してほしいとの要望がありました。競技団体内では手話通訳士育成のための予算を組むことが難しいとの課題も出された。

テーマ③『聞こえるコミュニティとどうつながるか』(参加:11名)

進行役:全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 普及啓発事業部 中西 潤

聞こえる競技団体(NF)とのつながり、聞こえる学校とろう学校の交流方法、懇談会を設けているか、聞こえる大会に出ている選手情報が得られるか等。

(討議内容)

ろう学校、加盟団体、デフスポーツ団体それぞれの立場で持っている課題について討議。ろう学校に通う生徒数の減少により、聞こえる学校に通学しているろう者の状況把握ができないという現状から、偶然ろう者を見つけ、そこでスカウトし確保したという体験談があったが、きちんと組織を活用しろう者の情報を確保するという連携を作っていくことが必要であることを確認した。

最後に2019年9月19日(木)~22日(日)に開催される第53回全国ろうあ者体育大会 in 鳥取・島根 (<http://torideaf.jp/publics/index/92/>) のPRをし、多くの参加を呼びかけた。

(成 果)

加盟団体の体育部長とデフスポーツ団体が一堂に会する場がこれまでなかったこともあり、新鮮な気持ちで意見交換を行えた。今後、選手の育成や発掘とろうあ運動の関係を強くするためにもこのような場を続けて欲しいという意見が多くあがった。また、ろう学校関係者にも呼びかけ、参加してもらったことで、ろう学校生徒・教師とデフスポーツ団体関係者との繋がりを強める良い機会となった。

<当日の様子>



全体の様子



ミニ講演

『スペシャルオリンピックス日本の25年』



パネルディスカッション

『障害者スポーツを「見る」から「知る」「応援する」「支援する」へ』



デフスポーツ団体からの現状報告①



デフスポーツ団体からの現状報告②



分散会テーマ①
『選手の発掘及び強化』



分散会テーマ②
『デフスポーツ団体の運営や企業支援のつながり』



分散会テーマ③
『聞こえるコミュニティとどうつながるか』

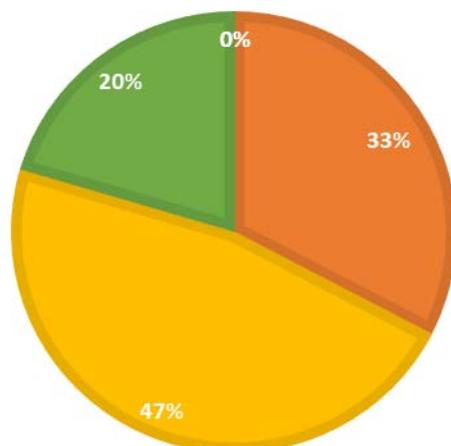
●アンケート実施 回答者数：51名

(総評)

- ・加盟団体体育部長とデフスポーツ団体が出会い情報交換する場がなかったので良い機会となった
- ・聞こえる競技団体や他の障害種別の競技についても学び、良い点は活かしていくことが重要で、デフスポーツの特徴や必要性を知ってもらいたい
- ・ろう学校関係者と繋がりができ、話が聞けて良かった。今後の選手発掘に参考となる
- ・デフスポーツ団体からの発表は現状を知ることができて良かったが、質疑応答もあればさらに情報交換を深めることができた
- ・パラリンピックやスペシャルオリンピックスのように知名度を上げていく努力が必要
- ・デフスポーツ団体の現状や悩みを共有できるこのような場を継続して開催して欲しい

1. スペシャルオリンピックス講演

■とてもよかった ■よかった ■普通 ■あまりよくなかった ■よくなかった

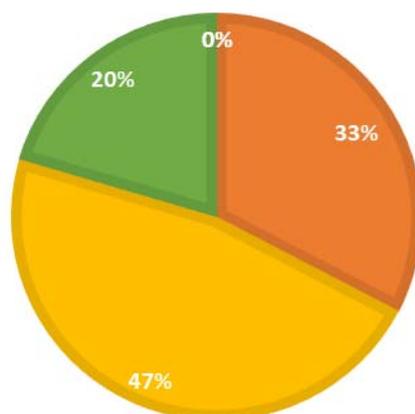


【自由記述】

- ・ろう学校には知的障がいをも併せ持つ生徒が増えている。特別支援学校の中でもスペシャルオリンピックスの関心は高まっているので参考になった
- ・民間から始まって、今のように大きくなったアイデアとプロセスを知りたいと思った
- ・デフスポーツと共通する課題もあり参考になった

2. パネルディスカッションについて

■とてもよかった ■よかった ■普通 ■あまりよくなかった ■よくなかった

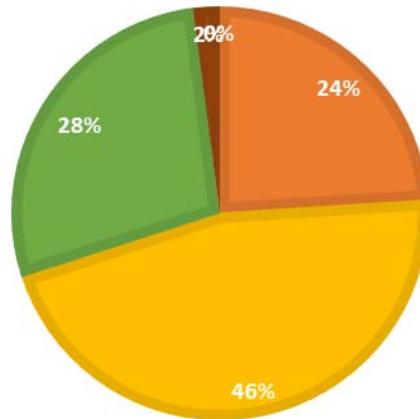


【自由記述】

- ・大会のビジョンや大会開催の意義を明確に意識していかなければならないと思った
- ・各者の考え方やできることの違いがわかり、課題が見えやすくなった
- ・考えさせられることが多かった。デフリンピックの価値を高めていかなければと感じた
- ・やはり見るだけでなく、多くの人に理解してもらうように努力することが大切だと実感した
- ・将来の障害者スポーツとしての在り方、ビジョンを知ることができた

3. デフスポーツ団体からの報告

■とてもよかった ■よかった ■普通 ■あまりよくなかった ■よくなかった

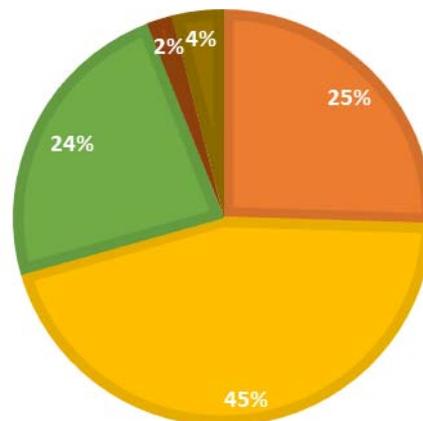


【自由記述】

- ・団体を超えた共通の課題を知ることができ、世界大会を実施している団体の話など興味深かった
- ・時間が短く、質疑応答の時間がなかったのが残念だった

4. 分散会

■とてもよかった ■よかった ■普通 ■あまりよくなかった ■よくなかった



【自由記述】

- ・多くが共通の課題であったので、情報交換しながら少しでも状況打開につながれると良い
- ・選手発掘についてはデフスポーツに大変重要なテーマなので、このような場をもうけていただきとてもよかった
- ・在学している生徒をどう外部団体につなげられるか、様々な立場から話を聞き、今後どうすればよいか参考になった
- ・デフスポーツ団体と加盟団体体育部長との横のつながりが弱いと感じた
- ・今の私たちの状況を多くの方に伝えることができた、課題や悩み等が共通認識となりよかった

(2) デフ競技団体の医科学支援

日 時：2018年12月16日（日）9：30～13：00

会 場：NATULUCK飯田橋東口 駅前店4階大会議室B

参加者：全日本ろうあ連盟スポーツ医科学委員会委員

デフスポーツ団体のメディカルスタッフ 等 27名（主催者側含む）

出 席：全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

小椋武夫委員長・倉野直紀事務局長・栗野達人委員・田原直幸委員

医科学委員会 立石智彦委員、中島幸則委員、早瀬久美委員

（事務局スタッフ3名）

講演 日本サッカー協会コンディショニングコーチ 早川直樹氏 講演

『スポーツにおけるメディカルサポートの重要性』

日本サッカー協会におけるメディカルサポート体制の確立までの経緯を学び、ろう者の特性を考慮した医科学サポート体制の在り方について考える。

ワークショップ『ろう者アスリートへの医科学サポート体制の在り方をどう啓発していくか』

（意見交換が中心）

<当日の様子>



早川氏の講演



講演を聞く参加者



グループワーク①



グループワーク②

(成 果)

研修会では早川氏から日本サッカー協会の黎明期から選手を支えてきた立場として、メディカルサポートの観点から選手を支えるスタッフ体制の構築、トレーナーのあり方やセルフコンディショニングの重要性について講演いただき、参加者も団体運営に当たり多くの学びを得ていた。また、メディカルスタッフ同士情報交換を行うことができた。

また、デフアスリートを支援するために、聴覚障害ならではの特性を踏まえた支援の内容が記載されたパンフレットを作成。編集・原稿執筆は医科学委員会で行った。配布先は日本障がい者スポーツ協会登録の医師及びトレーナー約 600 名（日本障がい者スポーツ協会経由で配布）、デフスポーツ団体・全日本ろうあ連盟加盟団体で、合計 800 部を作成した。

※パンフレット【聞こえないスポーツ選手のメディカルサポートについて】



(次ページから内容を掲載)

聞こえない人が 受診時に困ること

1 予約

医療機関に連絡したいが、電話番号しか掲載されていないため連絡手段がない



- FAX やメールなどでも連絡が取れるよう FAX 番号、メールアドレスの表記をする

2 呼び出し

待合室や診察室の前など、口頭で名前を呼ばれてもわからない



- 受付番号モニターで表示するなど情報を可視化
- 受付時にお知らせランプまたはバイブレーションを用意
- 機械の設置が難しい場合は直接選手本人のところにまで呼びに行く

聞こえない人へはしっかり確認を!

診察結果や病状の説明を口頭で行うときは、聞こえない人は口形を読みとらざるを得ないため、内容が正しく伝わらないときがあります。説明内容を口頭だけでなく、筆談を使ったり、説明文を指で示しゆっくり読んでもらうなど、誤解のないようにお互いに通じあっているか、繰り返し確認をすることが必要です。

3 診察-その①

診察中、マスクをしたまま説明されるため、口の動きが読めない



- マスクを外す
- 絵カードなどを作成してコミュニケーション
- 「どうされましたか」といった漠然な質問は答えに困る聞こえない人もいるため、可能な限り具体的な質問で、Yes/No で答えられるように工夫する

4 診察-その②

選手本人ではなく、付き添いの人や手話通訳に向かって話しかけられる



- 主体は選手本人なので、通訳者や原語に伝えるのではなく、本人に伝える（筆談などの方法があります）
- 選手本人と目を合わせて説明をする

5 会計・処方

大声で話しかけられる



- 聴力のレベルによるが、音は分かるが何を言っているのか聞き分けが難しい場合が多い。声のボリュームを大きくすればよいというものではない

聴力検査

聞こえない選手の国際大会に出場するにはいくつかの条件があります。例として、デフリンピックへの参加条件は「補聴器または人工内耳を外した状態で、両方の耳のうち聞こえている方の耳の平均聴力レベル（PTA）が 55dB 以上の聴覚障害を有する（500、1000、2000 ヘルツの三つの純音平均聴力レベル、気導、ISO1969 基準）者であること」です。このことを証明するためには ICSD（国際ろう者スポーツ委員会）公式オーディオグラムの書式を使用し、医療機関で「聴力検査」を受けなければいけません。

必要な検査項目

1. 気導
2. 骨導
3. ティンパノグラム（ティンパノメトリー）
4. 耳小骨筋反射（リフレクソメトリー）



※日本では、聴力レベル 70dB 以上から身体障害者手帳の交付を受けられますが、それ以下だからといって聞こえるということではありません。デフリンピックの参加資格は上に書いたように聴力レベル 55dB 以上ですので、世界との基準の違いがあります。



健康診断

大会に参加する選手及びスタッフは、健康診断を行います。そのうち臨床検査項目は主に以下の通りです。

- 心電図検査 ● 胸部X線 ● 肺機能検査(※)
- 尿検査 ● 血液検査 ● 生化学検査

(※)肺機能検査は難しい!

肺機能検査は主にスパイロメトリーを用います。検査技師から「息を吸う」「吐き続ける」といった指示が聞こえないので、指示通りに行うことが困難です。

聞こえない人にとっては特に難しい検査なので、一度身振りや手本を見せる、練習する時間をつくるなど、準備してから検査をすることが望ましいです。



選手のドーピング防止活動をしています

- ・ JADA(日本アンチ・ドーピング機構) や専門機関の認定商品を推奨
- ・ Global DROで医薬品を検索(ただし医療用医薬品のみ)
- ・ 公益財団法人日本スポーツ協会が発行している「使用可能薬リスト」を参照
- ・ スポーツファーマシストに相談
- ・ 薬師会アンチ・ドーピングホットラインで相談
- ・ 日本スポーツ振興センター(JISC)のドーピング通報窓口へ通報
- ・ 場合によっては TUE(治療使用特例/Therapeutic Use Exemptions)申請

聞こえないスポーツ選手の特徴

▶ バランスの悪い人の割合が多い*①

成人の聞こえない人に対して、専門的な耳鼻科領域の検査を行った結果、約30%程度に前庭機能の低下、または機能がいない人がいることがわかっています。

また、バランステストとして用いられる片脚立ちテストを行うと、成人の聞こえない人は聞こえる人と比べて目を閉じた時に持続時間が短い人が多いことがわかっています。

より専門的なバランスを調べる重心動揺検査においても、目を閉じた状態では聞こえる人と比較して体の動揺が大きくなる人が多いです。

▶ 目の使い方は優れている*②

聞こえない人のスポーツビジョン測定の結果は、8つの測定項目の中でも、「DVA 動体視力（横方向）」はとても優れています。

聞こえない人は日頃より視覚からの情報を多く取っています。その中でも、横方向の目の使い方が優れているということがわかっています。

*①②：中島幸則（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター准教授）他、成人の先天性聴覚障害者の平衡機能と視機能の評価、日本臨床スポーツ医学雑誌、Vol.18, No.2, 297-304.

聞こえない選手が困った事例

〈例：バスケットボール〉

試合中に相手チームの選手と衝突し転倒

↓
聞こえない選手だと理解されず、気が付くと担架に乗せられ手足が固定されていた

↓
手が固定されていたため手話ができず、パニックになり過呼吸に

担架に乗せる際、意識があり上肢のケガがない場合、肘から先は自由に動かせるようにしてください



〈例：バレーボール〉

ボールを受けとめようとお互いに同じ方向を向いていた。聞こえない選手は視野が広いものの、後ろが見えるわけではなく、ボールに集中していて音や声、合図がわからず、ぶつかってしまうことがある



〈救急場面〉

- 肩や手にケガをしてしまい、手話ができず意志が伝えられなかった。（確認のために肩を動かそうとされても止められなかった）
- 救急隊員がマスクをしていてコミュニケーションが取れなかった。
- 「耳は聞こえますか？」と聞かれて聞こえないという身ぶりをしたら、落車が原因で耳が聞こえなくなったと勘違いされた。（例：自転車競技）

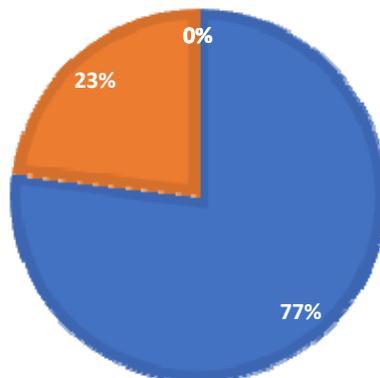
● アンケート実施 回答者数：13名

（総評）

- ・最先端のメディカル対策について学ぶことができ良かった。メディカルサポートのあり方について具体的な話があり、参考になったという声が多かった
- ・競技を超えてメディカルスタッフ同士での現状や情報交換の機会ができて良かった
- ・競技人口の少なさ、人材や資金面で悩んでいる団体が多かった
- ・医科学（メディカルサポート）への興味・関心をさらに高めていきたいという意見があった

講演「スポーツにおけるメディカルサポートの重要性」

■ とてもよかった ■ よかった ■ 普通 ■ あまりよくなかった ■ よくなかった



【自由記述】

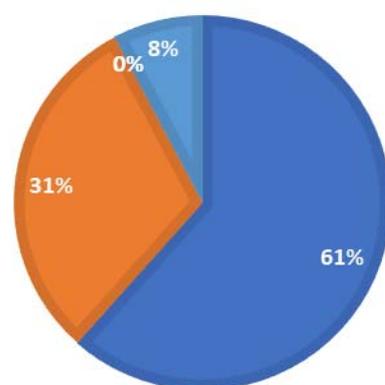
- ・メディカルサポートにおいて、特にアスレチックトレーナーの役割の変換、怪我が起きた後の対処方法ではなく、怪我予防に重きを置くこと、またどのような役割のスタッフがいるのか教えて

いただき、運営の参考になった

- ・アスレチックトレーナーの歴史や目標を知ることができた
- ・今のスポーツの医療体制が多くサポートの中で行われている事がよく分かった。年代ごとに必要なサポートがあることについても勉強になった
- ・日本のトッププロの情報を知る機会になった。今後の方向性を確認できた
- ・セルフコンディショニングの重要性についてを次の合宿で実践したい

ワークショップ「ろう者アスリートへの医科学サポート体制 の在り方をどう啓発していくか」

■とてもよかった ■よかった ■普通 ■あまりよくなかった ■よくなかった



【自由記述】

- ・各競技団体の現状を共有でき、悩みも共感してもらえたので、今後の課題（人材確保、資金調達等など）、解決に頑張りたい
- ・常に「在り方」に関しては、皆でしっかり話して、活動していくことで、ろう者間だけでなく、世間一般にも広く知ってもらえる機会となる様活動できると良いと思う
- ・競技によって違いはあるが、ある程度同じところがあるのが見えた
- ・他競技・他団体の現状を知ることができ、情報交換・共有ができた

【デフ医科学について困っていること】

- ・アスレチックトレーナー、ドクター等メディカルスタッフ（いずれもデフに理解があり、手話ができる、手話ができなくても唇の動きを大きく動かしてくれるなど）の名簿があればうれしい
- ・資金不足と人材不足
- ・競技人口が少なく、選手たちの情報を得る場が少ない
- ・国際大会の時に、内科的な病状を訴える選手がいたが、ドクターが帯同していなかったので判断に悩むことがあった

【今後どのような研修会を希望するか】

- ・体重管理、食事、体作り等、トレーニングに関係することについて
- ・メディカルスタッフの連携についての研修
- ・他のデフスポーツ団体の活動状況や、同じ競技の聞こえる団体の活動状況が知りたい

(3) デフリンピック啓発のための事業「デフリンピック・フェスティバル」

(神奈川県聴覚障害者連盟と共催)

日 時：2019年3月2日(土) 13:00~17:00

会 場：神奈川県横浜市・新都市ホール

参加者：一般市民 約1,000名

出 席：全日本ろうあ連盟 石野富志三郎理事長、長谷川芳弘副理事長・久松三二事務局長
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

小椋武夫委員長・倉野直紀事務局長・栗野達人委員・竹島春美委員・中西潤委員
(事務局スタッフ12名、要員約50名)

対談「障害者スポーツの発展について」

井上康生氏(柔道日本代表監督)、乙武洋匡氏

講演「デフリンピック 世界最高峰の舞台上で最高のパフォーマンスを」

早瀬久美氏(サムスンデフリンピック大会銅メダリスト)

「HANDS I GN」(神奈川県出身の手話パフォーマー)のパフォーマンス

神奈川県立横浜南陵高校(第4回・5回全国手話パフォーマンス甲子園)手話劇

「デフアスリートの支援の意義」について説明、来賓挨拶・来賓紹介

ブース出展(ミニ手話教室、陸上競技スタートランプデモ、ゆるスポーツ協会の紹介) 等
(広報活動)

全日本ろうあ連盟のWebサイト掲載、ポスター・チラシの配布に加え、2019年2月12日(火)には神奈川県政記者クラブでの記者会見を実施。また、テレビ神奈川・FMヨコハマでの番組告知や新聞各紙への記事・広告掲載、神奈川県公式Twitter・YouTubeでの紹介など、様々なチャンネルを使って広報活動を実施。

(成 果)

当日はスポーツ庁長官や神奈川県知事等、多くの来賓の方々にお越しいただき、一般市民だけでなく行政にもデフスポーツやデフリンピックを知ってもらうため、多くの要素を盛り込んだ一大イベントとなった。当日は会場が満員となる約1,000名の参加があり、また、YouTubeを通して遠隔地の方でもライブで舞台の様子を中継でき、デフスポーツやデフリンピックの啓発として大きな成果をあげた。

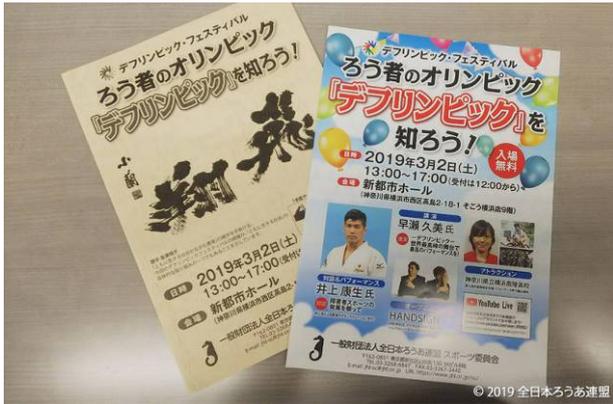
※当日参加者数：実人数906名、出演者・来賓・要員等含め約1,000名

※YouTube LIVEで生中継を実施。3月2日当日は約700名(延べ数)がライブ視聴。

平成31年4月20日現在、視聴回数約3,200回。

URL：<https://youtu.be/skn00jo94vU>

<当日の様子>



プログラム・チラシ



開場前の様子 多くの人が集まっています



HANDSIGN のパフォーマンス



会場全体が盛り上がりました



全日本ろうあ連盟 石野富志三郎理事長の開会のあいさつ



スポーツ庁 鈴木大地長官の祝辞



障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟デフリンピック支援ワーキングチーム 薬師寺みちよ事務局次長の祝辞



神奈川県 浅羽義里副知事の祝辞



神奈川県議会ユニバーサルスポーツ振興議員連盟 敷田博昭幹事長の祝辞



デフリンピック応援グッズ販売ブースも大盛況



ミニ手話教室も開かれ参加者は手話を勉強



陸上競技のスタートランプを体験



ゆるスポーツの映像投影



柔道の井上康生監督 登場



井上康生監督・乙武洋匡氏との対談



障害者スポーツの発展について話しました



迫力の柔道デモンストレーション



デフリンピックをめざすろう小学生



井上監督を背負い投げ!



井上監督・乙武氏・早瀬氏のクロストーク



(手話言語で)「デフリンピック！」



(手話言語で)「応援しよう！」



井上監督のサイン抽選会



サインが当たった皆さん



神奈川県立横浜南陵高校手話劇「ともに生きる」



スポーツ委員会 小椋武夫委員長によるデフリンピックの紹介



デフリンピアン 早瀬久美さんの講演



国歌の手話言語バージョンの策定を目指して



自転車練習のデモンストレーションもありました



SMBC 日興証券 人事部ダイバーシティ推進室長 勝具子氏よりデフアスリートの支援について説明



SMBC 日興証券所属 デフ卓球の川崎瑞恵選手



「ともに生きるかながわ憲章」の題字を手がけた書家 金澤翔子さんの書も展示しました



スポーツ委員会 栗野達人国際事業部長より冬季デフリンピック・アジア太平洋ろう者競技大会の応援に向けて



マスコットキャラクター かながわキンタロウ君がお出迎え



全日本ろうあ連盟 長谷川芳弘副理事長の閉会のあいさつ



長時間にわたり司会を務めてくださったフリーアナウンサーのトーマス サリーさん

全日本ろうあ連盟の加盟団体である（公社）大阪聴力障害者協会では、2019年3月2日（土）当日に谷町福祉センター（大阪市）にて、「デフリンピック・フェスティバルを見る会」を開催し、33名の参加がありました。



また、3月2日には、鳥取県米子市にて第53回全国ろうあ者体育大会プレイベントの第一弾としてデフスポーツフェスタが開催されました。県内の小学生とその保護者約100名が参加し、デフスポーツについて知り、体験しました。

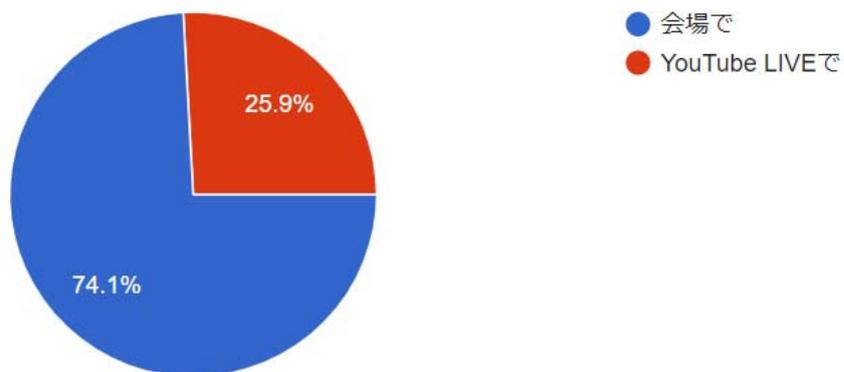
このイベントでも、「デフリンピック・フェスティバル」の中継映像を投影しました。



●アンケート実施 回答者数：59名 方法：インターネット（Google フォーム）による回答
（総評）

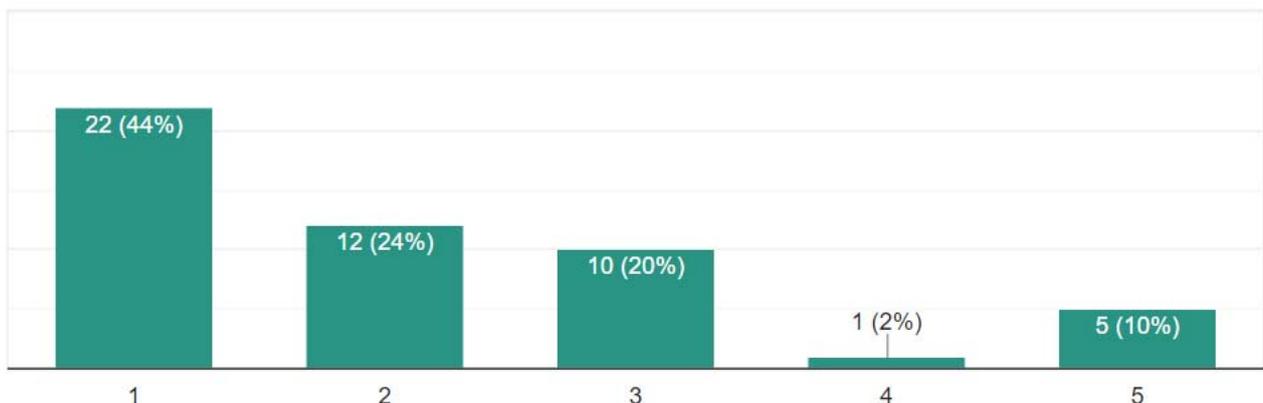
- ・全体を通して「良かった」という意見は 83%となり、満足度が高いイベントとの評価を受けた。特に井上康生氏の対談やデフリンピアンへの講演の満足度が高く、会場についても利便性が良かったという意見が多かった。
- ・ブースについては、デフスポーツ・デフリンピックの啓発イベントであったことから、デフスポーツ関連のものが良かったという声が寄せられた。
- ・今後の啓発イベントの参加希望については、約 90%が「参加したい」と回答。今回だけにとどまらず様々な方法でデフスポーツ・デフリンピック啓発のイベントを開催する重要性を感じられた。
- ・イベント認知のきっかけは全日本ろうあ連盟の発信が約半数を占め、その他はチラシを見て、友人に誘われて、HANDS I GNが出演するから、といった回答もあった。
- ・参加者層については聞こえない人の方が多いという結果になった。聞こえる人に対してのイベントの周知の方法や興味を持ってもらう内容について、今後検討の余地がある。
- ・約 1,000 人の参加+YouTube LIVE での中継にもかかわらず、アンケート回答数が 59 件と低かった。アンケート実施方法・協力の呼びかけについて積極的に働きかける必要があった。

○どこでご覧になりましたか



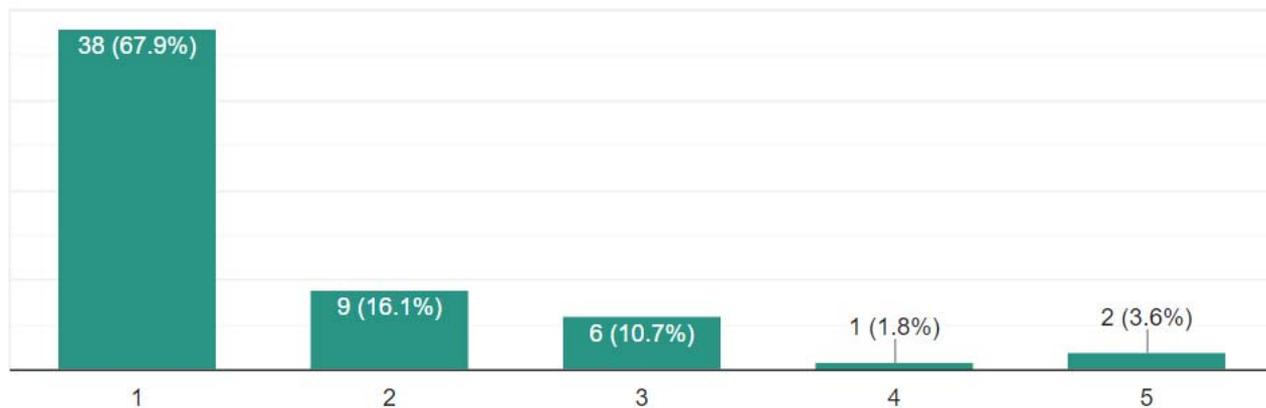
○オープニング「HANDS I GN」について

（1：良かった～5：良くなかった の5段階評価）



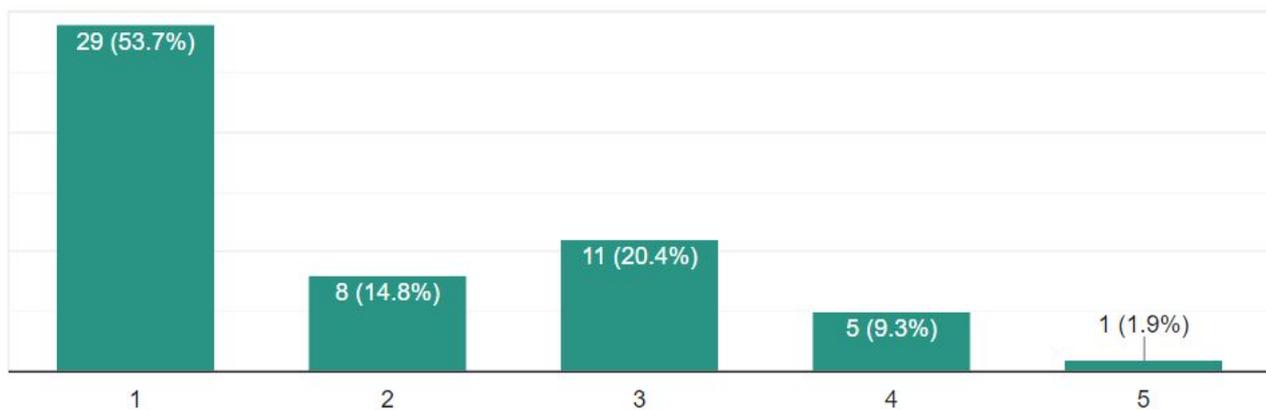
○井上康生氏対談・デモンストレーションについて

(1 :良かった～5 :良くなかった の5段階評価)



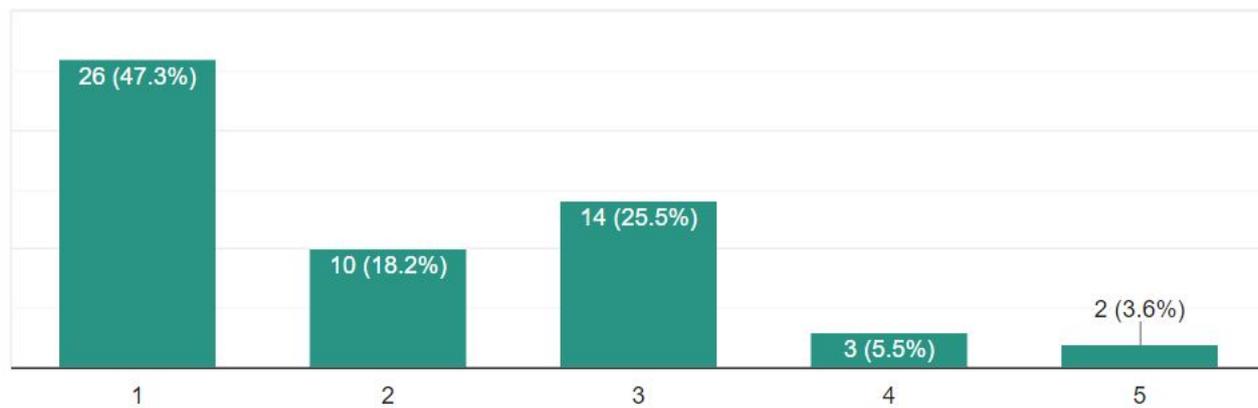
○アトラクション 神奈川県立横浜南陵高校 手話劇「ともに生きる」について

(1 :良かった～5 :良くなかった の5段階評価)



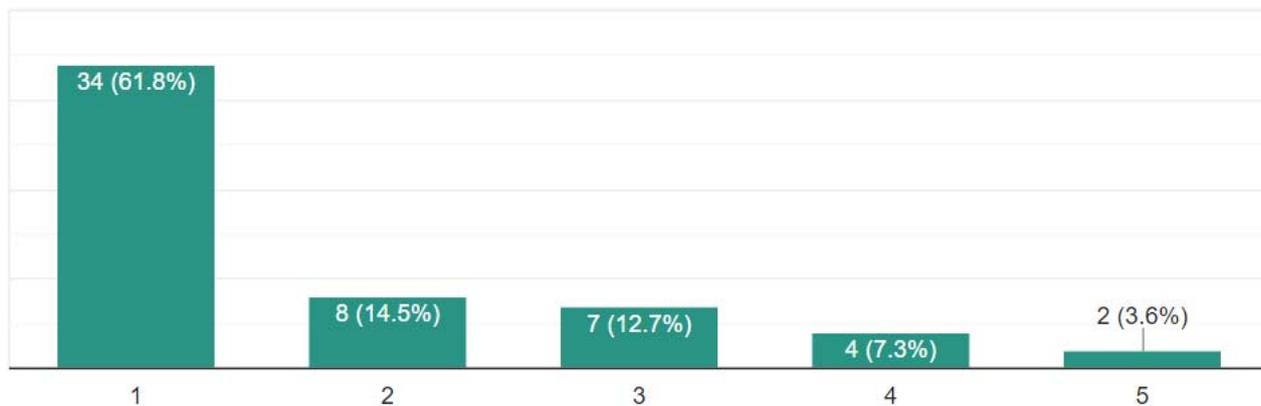
○デフリンピックの紹介について

(1 :良かった～5 :良くなかった の5段階評価)



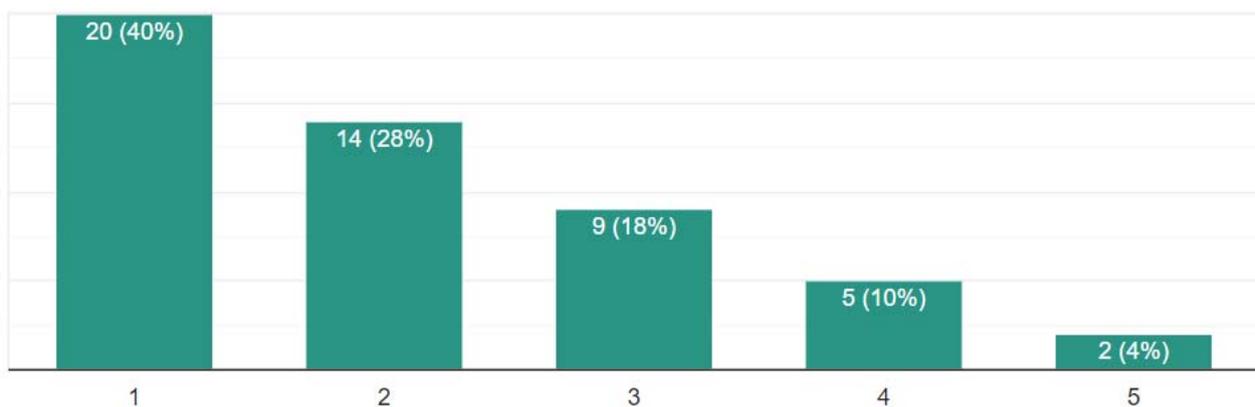
○デフリンピアン 早瀬久美氏 講演について

(1 : 良かった～5 : 良くなかった の5段階評価)



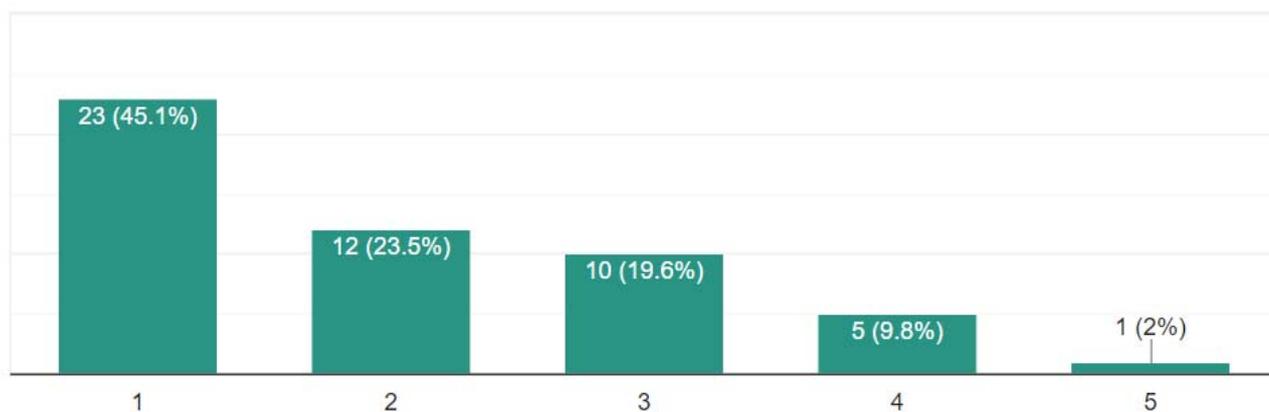
○企業（SMBC 日興証券）からデフアスリート支援の意義について

(1 : 良かった～5 : 良くなかった の5段階評価)



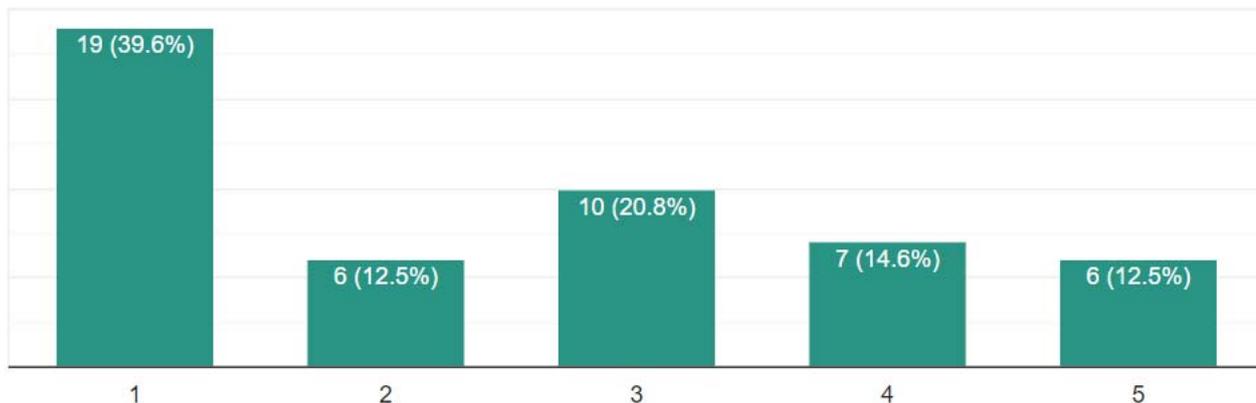
○デフリンピック応援に向けて について

(1 : 良かった～5 : 良くなかった の5段階評価)



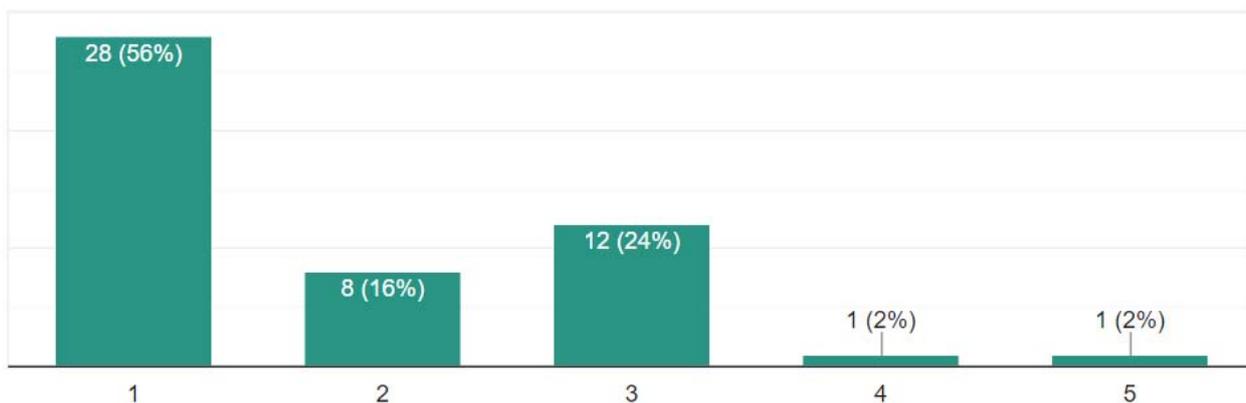
○ブースについて

(1 :良かった～5 :良くなかった の5段階評価)



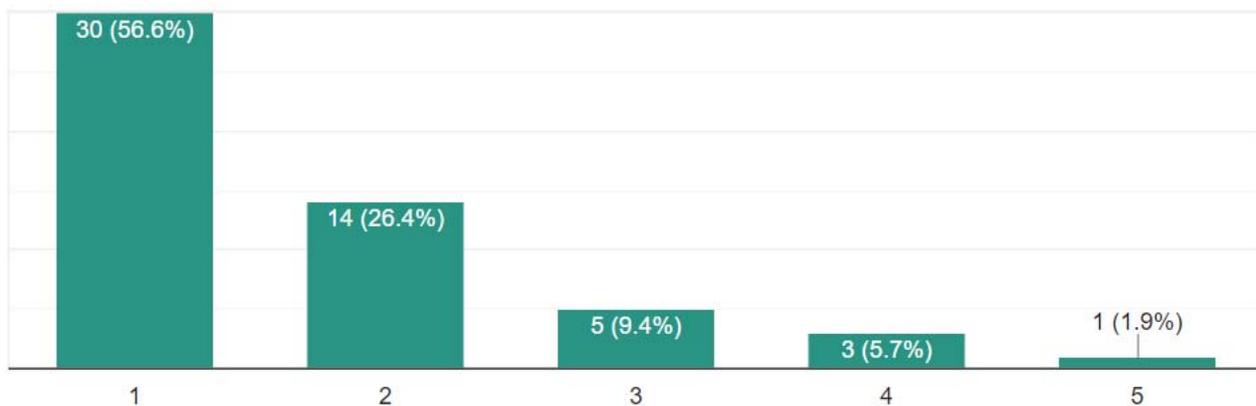
○会場について

(1 :便利だった～5 :不便だった の5段階評価)



○デフリンピック・フェスティバル全体について

(1 :来て良かった～5 :面白くなかった の5段階評価)

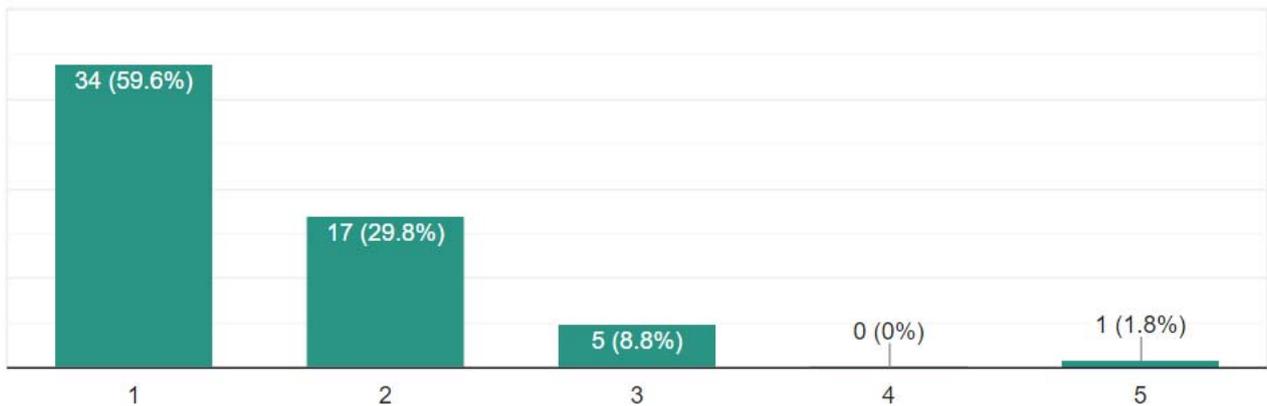


○「デフリンピック・フェスティバル」を知ったきっかけ（主な回答）

- ・全日本ろうあ連盟のHP、日聴紙、LINE@を見て 28 (49.1%)
- ・チラシ・ポスターを見て 6 (10.5%)
- ・知人から聞いて・誘われた 12 (21.1%)
- (その他)
 - ・神奈川県動画、TV番組、ラジオを聞いて
 - ・新聞広告を見て
 - ・HANDS IGNの告知を見て、出演するのを聞いたため
 - ・小学校で配布されたチラシを見て
 - ・市の手話講座で配布されたチラシを見て

○今後、デフリンピック啓発イベントがあったら参加したいですか

(1：是非参加したい～5：参加したくない の5段階評価)

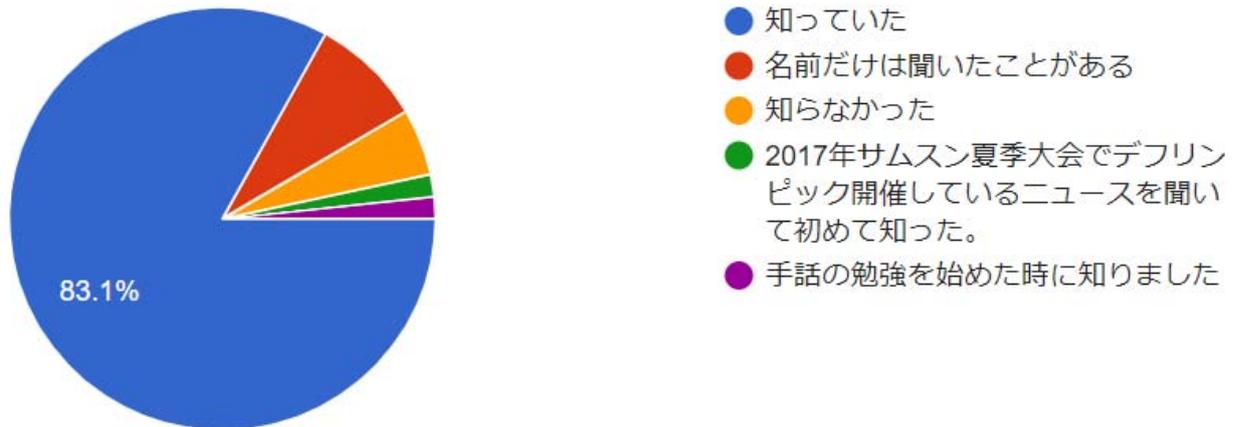


○「デフリンピック・フェスティバル」全体に対する意見

- ・デフリンピックのことがよくわかるイベントだった。結果を残して頑張っている選手のことをもっと知って欲しい。
- ・デフスポーツの競技紹介・体験ブースがもっとあれば良かった。
- ・遠方で行けない人のためにYouTubeでの生中継があって良かった。リアルタイムで見られて良かった。このことをもっと告知したら良い。
- ・デフリンピックについてどんな大会なのか、現役選手の体験を聞き、大会裏側の様子など内容が良く分かった。
- ・会場の交通アクセスがとてもよく、バリアフリーとなっており障害者も参加しやすかった。
- ・多くの方が参加されていて、皆、興味があるのだなと思った。デフリンピックに特化したイベントだけでなく、様々なイベントの中で、デフリンピックを紹介できるコーナーがあると、もっと多くの人に知ってもらえるのでは。
- ・競技の迫力が伝わらなかったと思いました。写真よりは映像をもっと使用してほしい。
- ・「HANDS IGN」のパフォーマンスが盛り上がり良かった。
- ・横浜南陵高校のアトラクション（手話劇）は素晴らしく感動した。

- ・時間が長く感じた。また、内容が少し多すぎて詰め込みすぎているように感じた。
- ・有名人を呼んだのも良いと思うが、もっとデフアスリートに焦点を当てた方が良かった。
- ・情報保障も大きなスクリーン2画面を使って見やすかった。
- ・この機会に、デフリンピックが一般の方々にもっともっと広まることを期待したい。
- ・良かったと思うが、子どもたちの参加がもっと多いとさらに良かった。

○ろう者のオリンピック「デフリンピック」を知っていたか

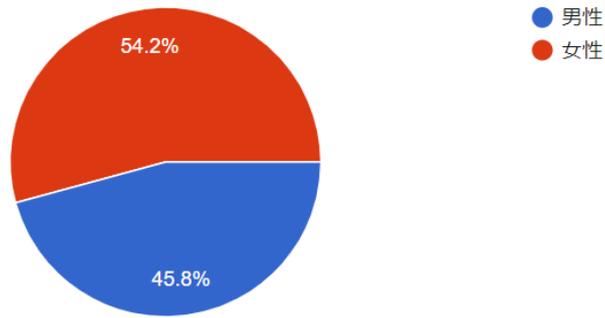


※参加者については「デフリンピック」について知っている人が83.1%と多かった。今後はデフリンピック・デフスポーツについて知らない人へどう普及していくかが課題。

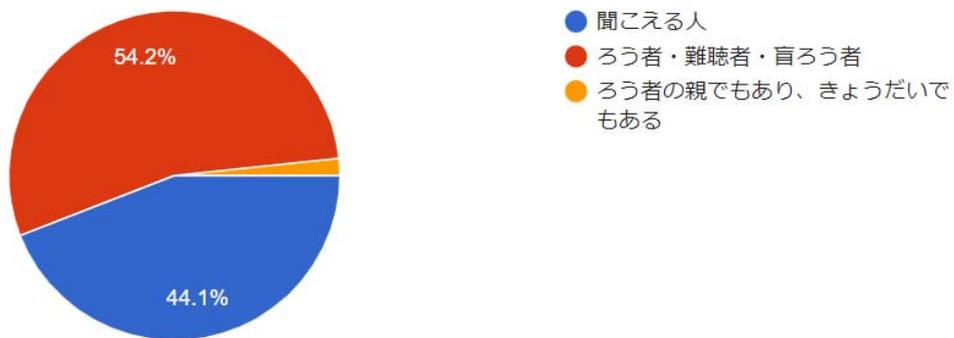
○「デフリンピック」、「デフスポーツ」について疑問に思ったこと、知りたいこと

- ・なぜ、連盟会員の登録が必要なのか。国際手話を覚えなければいけないのか。
- ・デフリンピックに出られた方のショートムービーを観て、他の選手の紹介ショートムービーも作成し、社会にアピールできたら、もっと知ってもらえるのではないかと思った。人に焦点を当てる試みは興味を抱かせる良案だと思った。
- ・もし日本が開催地になったらサポートしたい。方法はどうしたら良いか。
- ・デフリンピックの様子がテレビで見られないのが残念。NHKでは、デフリンピック応援特集としての番組はあっても、デフリンピックそのものの様子は映らない。なぜなのか。
- ・同じ競技でも聞こえないことの特性や魅力は何か。
- ・どこにどうやって申し込んだら観覧できるのか。ネット中継等で見るとは可能なのか。どこに行けばデフスポーツと接点が持てるのか。そういった情報をどこから手に入れたらいいのか。

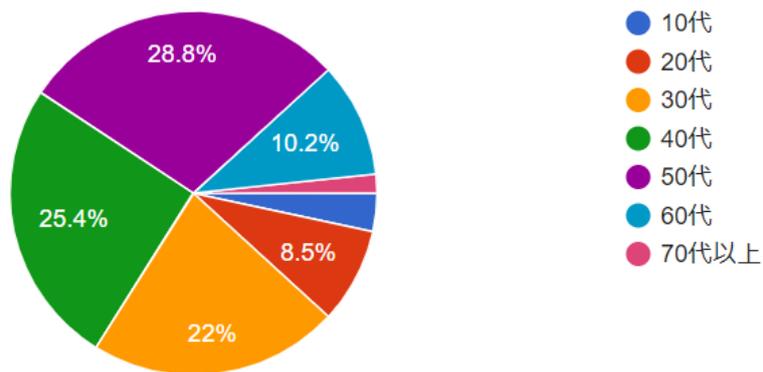
○性別



○聞こえについて



○年代



○（参加・視聴）地域

- 横浜市 15名 (28.8%)
- 東京都 15名 (28.8%)
- 横浜市・川崎市・相模原市以外の神奈川県 11名 (21.2%)
- 川崎市 2名 (3.8%)
- (その他) 宮城県・埼玉県・千葉県・群馬県・愛知県・岐阜県・大阪府

<参考資料>

デフ・スポーツの発展を!

初のデフスポーツネットワーク会議を開催

1月27日、全日本ろうあ連盟主催の「デフスポーツネットワーク会議」が東京・有明コロシアムで開催された。この会議は、デフスポーツの発展を目的として、関係団体や個人が一堂に集い、今後の活動の方向性を話し合うという趣旨で開催された。

デフスポーツ競技団体の報告もありました(写真は陸上競技協会からの報告)



初めに、知的障害のある人たちが、デフスポーツの普及・発展に向けて熱心に取り組んでいる。この会議は、関係団体や個人が一堂に集い、今後の活動の方向性を話し合うという趣旨で開催された。

関係が深まりました。続いて行われたパネルディスカッションでは、同委員会の小笠原委員のコーディネートのもと、障害者スポーツの普及・発展に向けて取り組んでいる。この会議は、関係団体や個人が一堂に集い、今後の活動の方向性を話し合うという趣旨で開催された。

同僚がバネリクスを賞め、障害者スポーツの普及・発展に向けて取り組んでいる。この会議は、関係団体や個人が一堂に集い、今後の活動の方向性を話し合うという趣旨で開催された。

← (1) 「デフスポーツネットワーク会議」を取り上げた記事

(全日本ろうあ連盟発行)

日本聴力障害新聞 2019年3月1日号

↓ (3) デフリンピック啓発のための事業

「デフリンピック・フェスティバル」を取り上げた記事

(全日本ろうあ連盟発行)

日本聴力障害新聞 2019年4月1日号

JAPANESE DEAF NEWS
聴力障害新聞
2019年4月1日 第323号 月刊1日発行
発行所：全日本ろうあ連盟 東京都中央区新富町1-1-1
編集者：中野 洋子
発行部数：1,000部
定価：1,000円(税別)
送料：500円(税別)
購読料：(年)10,000円(税別) (半年)5,000円(税別) (3ヶ月)2,500円(税別)
購読申し込みは、日本聴力障害新聞編集部
〒100-0001 東京都中央区新富町1-1-1
TEL: 03-442-4147 FAX: 03-442-4009
E-MAIL: jdn@jdn.or.jp

みんなで、せーの
「デフリンピック!」
全日本ろうあ連盟のイベントに**1,000人**が集う
3月2日 横浜市でのフェスティバルで

みんなで叫ぼう **好き!!**
「デフリンピック」

障害者スポーツの発展を!

障害者スポーツの発展を! 障害者スポーツの普及・発展に向けて取り組んでいる。この会議は、関係団体や個人が一堂に集い、今後の活動の方向性を話し合うという趣旨で開催された。

デフリンピックの世界楽しく
連盟主催イベント

全日本ろうあ連盟主催の「デフリンピック」が、3月2日、横浜市で開催された。このイベントは、障害者スポーツの普及・発展を目的として、関係団体や個人が一堂に集い、今後の活動の方向性を話し合うという趣旨で開催された。

「研ぎ澄まされた感覚を」
井上さん(信託長)が期待込め

井上さんは、このイベントを通じて、障害者スポーツの普及・発展に向けて取り組んでいる。この会議は、関係団体や個人が一堂に集い、今後の活動の方向性を話し合うという趣旨で開催された。

ろう児の夢 実現へ!

このイベントでは、障害者スポーツの普及・発展に向けて取り組んでいる。この会議は、関係団体や個人が一堂に集い、今後の活動の方向性を話し合うという趣旨で開催された。

挑戦することに意味あり
「女性選手の出場数増やそう」
早瀬選手

このイベントでは、障害者スポーツの普及・発展に向けて取り組んでいる。この会議は、関係団体や個人が一堂に集い、今後の活動の方向性を話し合うという趣旨で開催された。

高校生が手話劇で訴え
「障がい者を排除しないで」

このイベントでは、障害者スポーツの普及・発展に向けて取り組んでいる。この会議は、関係団体や個人が一堂に集い、今後の活動の方向性を話し合うという趣旨で開催された。